



温かな心の波動

沼津市校長会長 中嶋 記恵子（沼津市立原中学校）

今も私の心を温かく満たす忘れ得ぬ作文がある。一昨年の『沼津文園』に掲載された当時本校3年生Nさんの「初めて小説で泣いた話」である。彼女は『西の魔女が死んだ』という本を読み、14年の人生で初めて涙を流した体験を素直な言葉で綴っていた。彼女の心を強く揺さぶったのは、作中のおばあちゃんの「いちばん大切なのは、意志の力。自分で決める力、自分で決めたことをやり遂げる力です。」という言葉だった。この言葉に触れ、自分で決めて行動することの大切さを噛み締めた彼女は、「心打たれた言葉は、本を読んで以来どこかで行動に移せるように胸にしまっている。」と文章を結んだ。読書を知識獲得の手段だけでなく、自分の生き方の道しるべとする彼女の感性に感動し、私はこの作文を全校生徒に紹介した。そんな矢先、その作文に込められた彼女の意志が、見事に花開いたことを知る出来事が訪れる。

10月の雨の日、学校に年配の女性から一本の電話が届いた。高齢のお母様を車椅子に乗せ、雨の中を急ぐ女性のもとへ、一人の女子生徒がそっと近づき、二人を覆うように傘を差し伸べてくれたのだという。自身も濡れながら自宅まで送り届け、名前を尋ねても微笑むだけの生徒だったが、女性は体育着の名札の苗字を見逃さなかった。「地域にこんな温かな心を持った生徒がいることが嬉しくて……」感謝にあふれた電話の中で告げられたその苗字こそ、あの作文を書いたNさんのものだった。この知らせに、言葉にならない感動が胸に押し寄せた。あの作文に刻まれた言葉が現実の行動として実を結んだことに私の心は震えた。



困っている人を見かけたとき、気恥ずかしさから一步を踏み出せないことは大人でもよくある。しかし、彼女は迷わなかった。胸の奥に大切にしまっていた「自分で決めて、行動する」という小さな意志の光が、雨の路上でごく自然に背中を押したのだと思う。

本から得た学びを胸に、見返りを求めず傘を差し出した彼女の優しさと、わざわざ学校へ感謝を届けてくださった地域の方の温かさ。二つが重なり合ったエピソードに胸が熱くなった。子供たちは学校だけでなく、地域の温かな眼差しの中で心を育て、勇気を糧にして成長している。これからも子供たちが自らの意志で歩み、誰かの力になれるよう、地域や家庭とともに温かく見守っていきたい。一冊の本から始まった温かな心の波動が、雨の日の地域を優しく照らしたように。

面接相談&電話相談

◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など、青少年に関する相談を直接（面接）または電話で行うことができます。



1 面接相談

暑さがやわらぎ、少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。過ごしやすくなる一方で、夏の疲れが出たり、気持ちの揺れが表れたりすることもある時期です。「いつもより元気がない」「何となく様子が違う」など、お子様の小さな変化が気になることはありませんか。そんなときは、焦らず見守り、話したくなったときに耳を傾けることも大切です。

◆お子様のことで少しでも気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

☎055-951-3440 青少年教育センター(沼津市八幡町97) *月~金 9:00~17:00

2 電話相談 愛称：やまびこ電話 055-951-7330)

◎相談受付時間……午前10時~午後7時 月~金曜日（祝日を除く）



情報コーナー

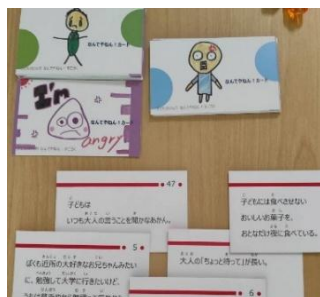
「なんでやねん！」から広がる子どもたちの笑顔

青少年教育センター 臨床心理士 石川 令子

日本が「こどもの権利条約」（児童の権利に関する条約）を批准して30年以上。しかし、令和7年度の認知度調査の報告書によると、全体（18歳以上）では、「聞いたことがない」が53.8%で最も多く、ついで「名前だけ聞いたことがある」（31.5%）、「内容を少し知っている」（11.1%）、「内容をよく知っている」（3.6%）となっています。「権利」という言葉の堅苦しさが、身近な実感から遠ざけているのが現状です。

さて、こうした敷居の高さを軽やかに飛び越えさせてくれる愉快的教材があることを

ご存知でしょうか？ それは「子どものけんり なんでやねん！ すごろく」（子どもの権利条約 関西ネットワーク）【左の写真はその一部】です。



魅力は、軽快なツッコミ。止まったマスで「なんでやねん！カード」を引き、そこに書かれた「自分はやっていないのに『どうせ君がやった』と決めつけられる」といった日常のモヤモヤを読み上げたら、みんなで声を揃えて「なんでやねん！」とツッコミを入れる。子どもも大人も楽しみながら学べる教材なのです。

1年前、わが家に遊びに来た2歳、5歳、6歳、7歳の子どもたちと盤を囲みました。引いたカードを読み上げ、部屋中に心地よく響き渡る「なんでやねん！」の大合唱。当時2歳だった子も上の子たちを真似て無邪気に声を張っていました。驚いたのは、ブロック遊びに移ってからのできごとです。自分で組み立てた車を年上の子に奪われ、なかなか返してもらえないとわかったとき、はっきりとまっすぐな声で「なんでやねん！」と口にしたのです。上の子たちも思わず笑顔。「自分の大切なものを侵害されるのはおかしい」という権利の根幹が、理屈を超えてその身体感覚にしっかり届いた瞬間でした。



条文を暗記するのではなく、カードを読み合い、笑い、感情を言葉に乗せる体験を通して肌で知ること。幼い子の心にもそっと種をまいてくれる、温かく頼もしい教材です。大人の私たちにとっても、子どもたちの声を聴く貴重な機会になると思います。



【体験活動「はばたき」】

7/17(金) 夏祭り(14人)
9/11(金) 源兵衛川散策(雨天中止)
9/25(金) アイロンビーズ(3人)

はばたき活動は、1対1の面接相談とは異なり、本所の他の通所生や、担当以外の職員とも関わることでできる小集団活動です。

「夏祭り」は、今年度の新しい試みで、3階の空間を利用して会場としました。参加者は、おやつづくりやメダカすくい、射的、輪投げ、ビンゴなどの活動やゲームで夏祭り気分を楽しみました。【7/17 参加者を待つ会場】



「源兵衛川散策」は、残念ながら、去年に続き、雨のため実施できませんでした。



【9/25 完成作品例】

「アイロンビーズづくり」では、参加者が事前にドットで表現した下絵をもとに、ビーズを並べ、すてきな立体作品を制作することができました。

【相談指導学級】(通称：はばたき教室)

相談・面接を何回か行った後、相談指導学級の利用を考えている子供や保護者には、相談担当者の案内のもと、実際に学級を利用している子供たちが、どのような場所でどのような活動をしているのかを見学してもらっています。

子供たちが「ここが私の新しい居場所」「ここなら頑張れそうだ」と思えるよう、昨年から、環境づくりに取り組み、部屋の模様替えを行ってきました。

生活室を明るくするため、入口のドアなどを淡い色のペンキで塗りました。また、よりアットホームな雰囲気になるよう、千本ライオンズクラブ様の御厚意により、畳コーナーを設け、さらにソファも置くことができました。朝早く来た子供の中には、活動前に畳にゴロンと横になり、一息ついてから活動を始める子供もいます。今年はスタディールームの机の配置を見直しました。他の人の目線が人一倍気になる子供のために、周囲からの視線を避けられる場所にも机を配置しました。また、外を眺めながら開放感を味わえるよう、窓に向けた席も設けました。子供たちは、来た順に空いている席から自分で自由に選び、それぞれのペースで活動を始めます。



少年教育センターの活動予定 (11・12・1月の主な活動) *天候等により、変更をすることがあります。

体験活動「はばたき」		補導関係	
11月10日(火)	三島散策(楽寿園・三島大社)	11月7日(土)	高校生によるクリーン作戦(予備日14日)
11月25日(水)	クリスマスリースづくり	11月13日(金)	補導委員会代表者会
12月10日(木)	風船バレーボール大会	12月9日(水)	県内一斉冬季少年補導
12月17日(木)	クリスマス会		
1月14日(木)	e-スポーツ講座		
1月27日(水)	新春お楽しみ会		
中央補導			
11月 4(水) 10(火) 11(水) 17(火) 18(水) 20(金) 24(火) 25(水) 27(金)			
12月 1(火) 4(金) 15(火) 16(水) 18(金) 23(水)			
1月 6(水) 8(金) 12(火) 13(水) 15(金) 20(水) 26(火) 29(金)			

補導記録より 7月～9月

- ・公園にいた高校生3人が、補導委員を見た瞬間、声かけすることなく、帰っていった。
- ・ゲームセンターで見かけた大学生男子と高校生女子のカップル2組が気になった。
- ・沼津署スクールサポーター参加。ゲームセンターで、29人の小中高校生男女に声かけ。
- ・狩野川で夕涼みをしている人に、川への転落予防の声かけをした。
- ・昼と夜の二回、小中学校PTAの皆さんと、地区夏祭り会場周辺や公園、学校、駅、コンビニ等を巡回した。多数の親子連れや友達連れの子供たちが来ていたが、問題行動は見られなかった。会場から離れた公園にいた中学生に声かけを実施した。
- ・書店で、コミックの万引きが多く、店側も努力しているが困っていた。
- ・ドラッグストアでは、オーバードーズ目的で咳止め薬（指定濫用防止医薬品）を、制服で同じ日に複数回にわたり購入しようとした高校生や大学生がおり、店舗側で注意している。
- ・警察より、ゲームセンターで女子の盗撮被害が多いので注意してほしいとの話を聞いた。



補 導 の 目

7月特別補導と感謝状贈呈式

青少年教育センター 黒石 泰司 入谷 達也

7月特別補導

7月は、特別補導実施の月です。「県内一斉夏季少年補導・立入調査」は、静岡県の「青少年の被害・非行防止強調月間（7月）」を受け、非行防止と青少年のための環境整備を目的とした活動です。沼津市では、7月7日を中心として、市内18地区と駅周辺7コースに展開し、少年補導と店舗等への立入調査を実施しました。地区補導委員をはじめ、430名の皆様に参加していただき、充実した活動になりました。市内の少年補導では、不良行為は0件、青少年を見守る「愛の声かけ」104件になりました。新たにドラッグストアを巡回場所に入れています。立入調査は、青少年に関係する業種75店舗を調査し、条例に基づく是正指導はありませんでした。



「沼津夏まつり特別補導」では、天候が不安定な中147名の皆様に2日間に渡って巡回補導に参加していただき、笑顔一杯の子供たちの姿を見守ることができました。

「県内一斉夏季少年補導・立入調査」及び「沼津夏まつり特別補導」に御協力いただいた地区補導委員、沼津警察署生活安全課・少年警察協助力員・少年指導委員等、

教育委員会・学校関係者・保護者・自治会関係者等の皆様、誠にありがとうございました。

感謝状贈呈式

9月11日（金）に、青少年教育センター会議室にて、沼津市少年補導委員感謝状贈呈式を行いました。補導委員を6年以上務められ退任された方17名に教育長から、4年以上6年末満務められ退任された方6名に補導委員会会長から、感謝状が贈呈されました。

長い間御尽力くださりました23名の方々をはじめ、今年度退任された皆様におかれましては沼津市の青少年の健全育成に御尽力いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

